

地域医療患者支援センター・がん相談支援センターだより



秋田大学医学部附属病院 地域医療患者支援センター・がん相談支援センター 発行

第45号

秋田県立図書館との連携が始まりました!!

「がん対策」として、がんの情報や相談の場について、患者さんやご家族だけでなく、一般の方、地域の方にも知っていただくことが重要との認識から、全国で様々な取り組みが進められています。国立がん研究センターでは、平成28年から「いつでも、どこでも、だれもが、がんの情報を得られる地域づくりの第一歩」ということで、図書館とがん相談支援センターの連携プロジェクトを進めています。

今年度、当院でも、秋田県立図書館と連携を図り、がんに関する情報提供とがん相談支援センターの周知を図っていくことに取り組みました。

1. 院内図書室「ひだまり」での秋田県立図書館所有の配架図書の貸出開始（2019年1月～）
2. がん情報セミナー開催（2019年2月21日）
3. 秋田県立図書館のがんに関する図書の選定協力（2019年2月）

【配架図書の貸出本好評！】

約100冊を3か月サイクルで配架しています。
1か月間で58冊の貸し出しがありました。
院内図書室の利用者も増加しています。
4月には、また新しい図書が配架されます。



【第1回 がん情報セミナー】

平成31年2月21日(木) 秋田県立図書館 3階多目的ホール

がんについての正しい知識を学ぶとともに、相談窓口であるがん相談支援センターの役割と活動等について、広く市民の方々に知ってもらい、理解を深めてもらうことを目的に企画しました。定員を超える51名の市民の方々の参加があり、熱心にメモを取りながら聴講していました。

今後も継続的に開催していく予定です。



平成30年度 秋田大学医学部附属病院・秋田県立図書館連携 第1回「がん」に関する情報セミナー

「がん」について もっと知ろう！

プログラム
「がん」について学ぼうーがんの正体とその対策ー
秋田大学医学部附属病院 看護学助教授 岩佐典明医師
がん相談支援センターの紹介ー役割と活動ー
正しい情報を得るために 秋田大学医学部附属病院 看護学助教授 岩佐典明

参加無料

日程 2019年2月21日(木)
時間 14:00～15:20
会場 秋田県立図書館 3階多目的ホール
定員 50名(要申込)

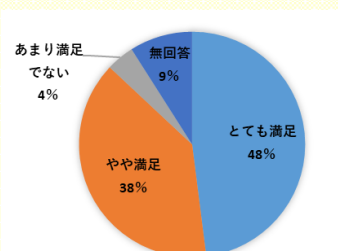
そもそもがんってどんな病気なの？
がんの基礎的な話から情報収集についてわかりやすくお話しします

お問い合わせ：秋田県立図書館
TEL 018-866-8400
FAX 010-0959 秋田県立図書館14-31
E-MAIL sak@pref.akita.jp

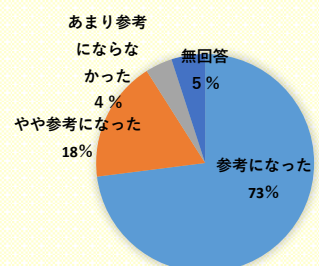
お申込みは
表向きにご覧ください



セミナーの content はいかがでしたか？



セミナーの content は参考になりましたか？





～退職されるセンタースタッフより～

【神林 崇先生(副センター長)】



今年は暖冬傾向で、早めに春の気配がありましたが、3月になり春も本番な感じです。一方で花粉症の方には辛い季節が早めの到来となるのでしょうか？

副センター長を数年来担当してきましたが、3月末で秋田を離れ、筑波大の睡眠研究機構に移ることになり、ご挨拶を書かせて頂いております。

大学の入学時に大阪から来て以来ですので、ちょうど35年間秋田に居たことになり、直近の20年間は大学の精神科で勤務しておりました。2002年以前にはセンターは無く、医療ソーシャル・ワーカー(MSW)の方も居られず、精神科では医療・福祉面の交渉・段取りが必要となる場合が多くて、大いに苦労していました。最初にMSW1名、看護師1名、事務数名で業務が開始され、現在は医師、看護師、MSW、PSW(精神科ソーシャル・ワーカー)、事務合わせて24名の大所帯となり、隔世の感があります。臨床面ではいつも非常に助かっております。2012年からは、センターの仕事も兼務していますが、院内外の潤滑的な役回りで多忙を極めていますが、皆さんとても一生懸命に担当して頂いていると思います。最近ガン支援の仕事も加わり、業務は増える一方ですが、必要とされている実感はありますので、頑張れるのだと思います。

精神医療に関しては、原因不明なものばかりですが、過眠症のナルコレプシーは覚醒系のオレキシン神経の障害によることがわかり、精神科疾患では無くなりました。一部の統合失調症も主に良性の腫瘍に対する抗体が中枢神経にも作用して発症することが明らかになっています。統合失調症(精神分裂病)は精神病では無くなる日が近づいていると感じています。原因がわかると分類が精神科以外に変わるためにいつかは失業しそうではありますが、うつ病や認知症の増加に加えて、緩和ケアやせん妄の診療があり、当面は多忙が続きそうです。

院内外での連携を深めて良い医療を提供するセンターの業務は、時代の要請に伴い、今後益々重要性を増して、案件数も増えて行くと思いますので、今後ともご支援とご協力をよろしくお願い致します。

【佐藤京子さん(看護師)】



私は退職後の再雇用が今の職場でした。在宅医療や転院等の調整場面や直接相談室にいらしての面談の場面では、自分の思い・悲しみ・怒り、時には怒られることもありましたが、しかし、患者さんは話し終わると少し気持ちが整理できたと表情を変えて帰られます。自分らしい生活、できるだけ自立した生活を送るために希望を聞く中で、患者さんが持っているしなやかな強さや脆さに触れることがしばしばあり、患者さんには「いろいろ教えていただきありがとうございました」「いつもと変わらない日常が長く続くよう頑張ってください」とエールを送っていました。退院支援する中では、かなり理不尽なこともありましたが、職場の同僚に励まされ、本当に良い職場で仕事できたことに感謝いたします。

【内田隆子さん(事務)】



約5年間、大変お世話になりました。師長さんをはじめセンタースタッフの皆様にも恵まれて、今日まで無事に務めることができました。仕事の中では様々な思い出がありますが、何より印象に残っているのは、毎日顔をあわせて協力していただいたセンタースタッフの「笑顔」です。これからも皆様の「笑顔」とご健康とご活躍を心より願っております。本当にありがとうございました。



～新規採用者より～

【村越伴子さん(MSW)】

2月から入職しました村越伴子と申します。

患者さんやご家族が安心して過ごせるよう、さまざまな職種のスタッフとの連携を大切にしながら支援していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

